
令和6年度
阪神北☆夢づくり応援事業事例集



阪神北県民局県民躍動室県民課

令和6年度 阪神北☆夢づくり応援事業事例集 目次

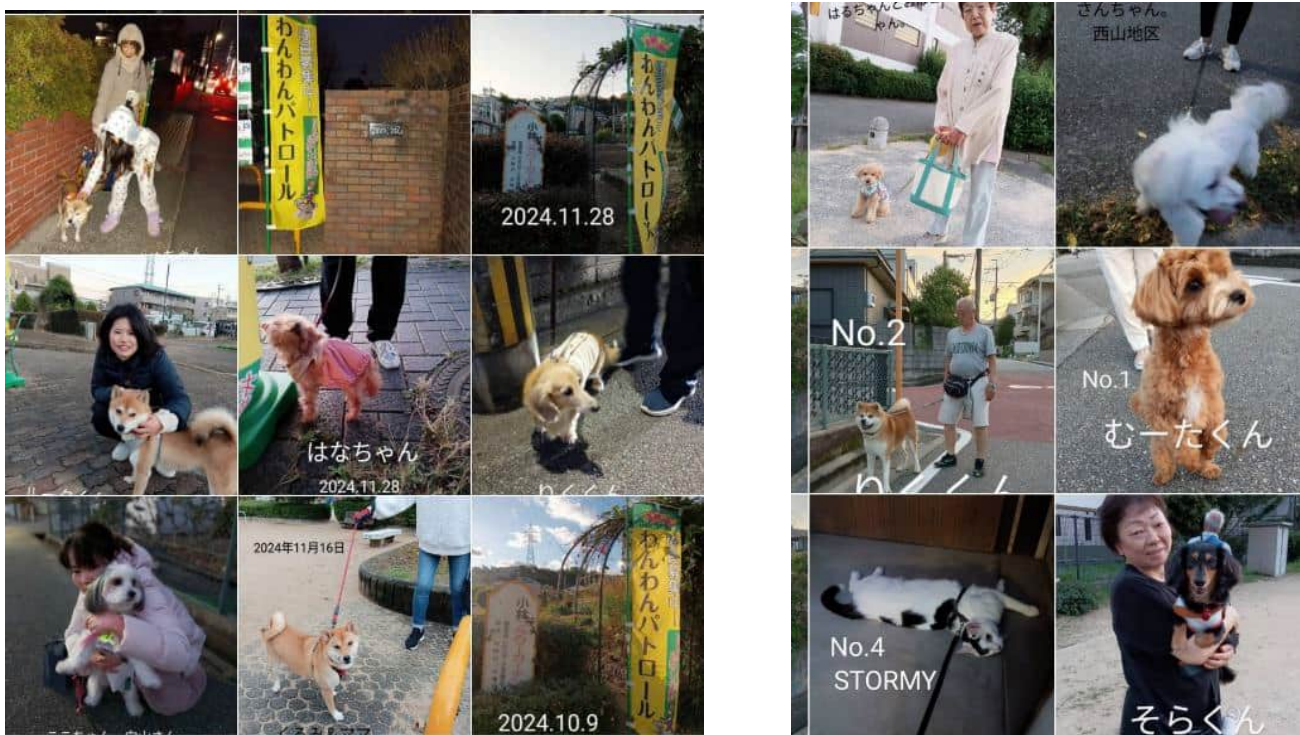
No	市町	団体名	事業名称	ページ
1	宝塚市	フラワー	誰でもできる地域の見守りVOL1 わんわんパトロールキャラバン	1
2	宝塚市	西谷農地再生プロジェクト	宝塚西谷 栗園再生プロジェクト	4
3	伊丹市	いたみサン・ジョルディの日実行委員会	いたみサン・ジョルディの日ーカタルーニャ流 本と薔薇のひろばー	8
4	伊丹市	いたみハロウィンツアー実行委員会	いたみハロウィンツアー2024	12
5	宝塚市	一般社団法人地方創生パートナーズ	相続空き家・農地等対策による持続可能なまちづくり事業	16
6	川西市	NPO法人コクレオの森	里山林をつくろう ー人工林の伐採からー	18
7	伊丹市	with LOCAL実行委員会	AFRICA with LOCAL2024～AFRICA YOICHI～	20
8	伊丹市	食の未来を創る会	いたみおーがにつく市グリーンツーリズム	24
9	川西市	多田東コミュニティ自主防災会	多田東地区災害小史の作成活用並びに防災ハイキング	30
10	猪名川町	HATAむすび	耕作放棄地で子供たちと農・収穫体験・味噌作り	34
11	三田市	ふれあい大会実行委員会	ふれあい大会	39
12	宝塚市	自然の学びの会	阪神地域の自然、里山及び文化と歴史をエコツアー体験を通じて見識を深めてもらう	45
13	宝塚市	宝塚アカデミー音楽団	第18回 宝塚アカデミー音楽団定期演奏会	47
14	宝塚市	トワボワの親子で花育	宝塚のダリアを使ってお花のお家を作ろう！～自然に触れ、心の豊かさを育む花育～	51
15	伊丹市	一般社団法人伊丹青年会議所	WORLD TOUR IN ITAMI 2024～世界を知ろう！伊丹万博～	56
16	三田市	あかしあ台体育振興会	“春のあかしあバスツアー” 及び “秋のあかしあバスツアー”	60
17	川西市	まちの宝物サポート隊	まち歩きマップで川西の魅力を再発見！	64

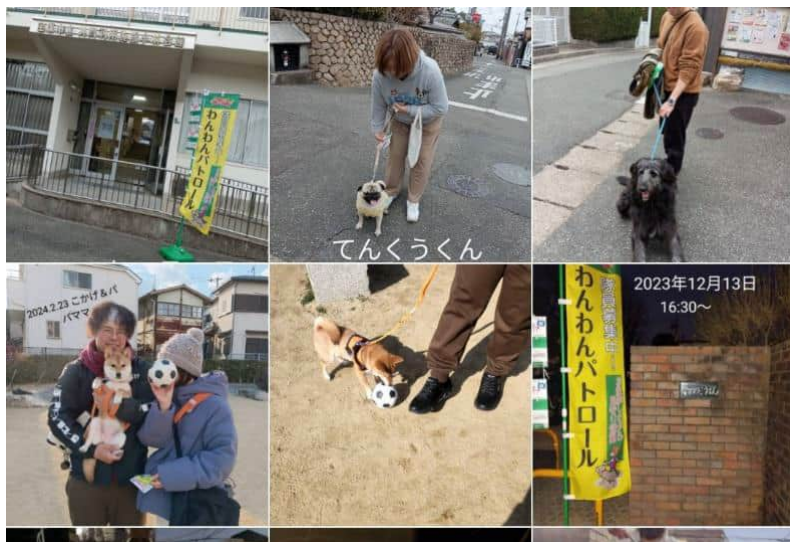
事業名 (誰でもできる地域の見守り VOL1 わんわんパトロールキャラバン)

団体名	フラワー				代表	根木 妙子	
協働団体							
活動地域	第一中学校区、良元小学校校区 宝塚市、						
事業の目的・趣旨	良元小学校児童の登下校の見守りを愛犬家に協力していただくことで、地域の団結力をアピールでき、不審者の抑制につながります。朝と夕方に人が出歩くことで通学路などを通行する自転車やバイク、乗用車が歩行者を意識した運転をし、減速通行を促せます。児童と愛犬家を繋ぐことで公園使用マナーを学び合います。事業の目的は宝塚市良元小学校校区の児童通学路またその周辺の道路交通安全強化と空き巣など防犯効果の向上と公園美化です。						
事業内容	愛犬のお散歩中に「わんわんパトロール中」と明記した目立つリフレクターの会員章をリードにつけていただけるように、キャラバンをだして口頭で啓発活動します。場所は、阪急今津線小林駅前、フラワーガーデン、小林公園、中野公園、中野町周辺公園、さくら公園、梅公園、イズミヤ、周辺公園、良元小学校校区周辺の動物病院、ペットショップなど。また、Instagram、良元コミュニティ広報誌や医療生協広報誌掲載を予定しています。キャラバンは月1回を予定しています。ご登録希望の愛犬家にオープンチャットへ愛犬の名前とお写真を任意で登録していただき会員証（リフレクター）をお渡しします。壊れたら交換し、退会時には回収します。フライヤーもご覧ください。						
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）		
					スタッフ	一般参加者	
	6	7	25	18:30～19:30 梅公園 7組に出会い趣旨をお話し快諾。ミニチラシと隊員章（リフレクター）を渡した。	2	7	
		8	16	18:45～19:30 小林公園 2組出合い快諾。あまりにすんなり引受けてくださりありがたい気持ちと児童の保護者にも周知した方が良く、良元小と第一中学へこの事業の説明をさせてもらい校内にチラシを貼り出してもらう（追加で1組登録）。	2	2	
		9	17	にこりたす1DAYに出店し大きくのぼりを出した。	2	400	
		9	28	16:30～18:00 フラワーガーデン 1組快諾	2	1	
	10	5		良元コミュニティ広報誌10月号掲載	1	0	
	10	9		ZUKAVO209号掲載	1	0	
	11	4		宝塚市広報掲示板13箇所へ1ヶ月貼り出す	1		
	11	13		17:00～18:30 梅公園 4組快諾	1		
	11	16		15:30～17:00 中野公園 1組快諾	2	4	
	11	17		18:30～19:00 小林公園 1組快諾	1	1	
	11	29		16:00～17:00 フラワーガーデン 1組快諾 阪神北泉民局辻屋様活動見学 宝塚市ポランリ・プ・ラズカボ西様取材	2	1	
		11	29	17:10～17:40 梅公園 3組快諾 宝塚市ポランリ・プ・ラズカボ西様取材	2	3	
		12	1	地区内自治会掲示板へ貼り出す			
		12	13	16:30～17:30 中野公園 4組快諾	1	4	
	7	1	21	17:00～18:00 さくら公園 1組快諾	1	1	
		2	23	16:00～17:30 梅公園 1組快諾	2	1	
		2	27	17:00～18:30 梅公園 2組快諾	2	2	
		2	28	16:00～17:30 小林自治会館 2組快諾	1	2	
		2	28	17:30～18:30 さくら公園 4組快諾	1	4	
		3	5	19:00～19:30 逆瀬川駅 1組快諾	2	1	

事業効果	お声がけした全員に快諾いただき、掲示板のチラシをみて登録くださる方、犬友をご紹介くださる方もあり、パトロール隊員は現在36匹です。 LINE オープンチャットから公園内の不法投棄の投稿があり市役所へ撤去依頼いたしました。こちらの助成金でのぼりとチラシを作り堂々と周知したことが愛犬家の安心につながった。隊員章があることで犬友同士で話題にあがり紹介につながった。 たった1年で成果を実感しています。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン2050の 実現に向けた 取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 11	(取組内容) 愛犬家、地域の方と協働し地域の防犯意識を高め犯罪を未然に防ぐ。	(効果) 毎日の犬の散歩で地域の見守りを頂いて、防犯活動になっています。大変助かり、広がりを見せています。
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ) 9	(取組内容) 児童と愛犬家が良い関係になると公園美化につながる。	(効果) 目立った交流は見られないが第3者の目があることで不法投棄を防げていると思う。
課題及び 今後の展望			
	(課題) 愛犬家さんから犬を連れての交流は難しいとお伺いした事と予算の都合でパトロール隊員交流会は中止しました。代わりに、動物愛護センターのペット防災展のチラシを配布し参加した動画をオープンチャットへ配信しました。愛犬家さん達の交流の場をどのようにセッティングするのが課題です。 (今後の展望) 動物病院とペットショップへチラシ掲示のお願いに行けていないので、引き続きのキャラバンとは別に、4月～6月頃に案内に周る予定です。3月ZUKAVOにわんわんパトロールキャラバンの記事が掲載されるので他地区の方に活動を知ってもらい、宝塚市全体に広がると良いと思います。		

(活動状況写真)





団体名 フラワー

団体設立 西暦 2023 年 3 月 16 日

活動分野 地域安全・防犯、子供の健全育成

設立目的 子育て家庭へ必要とされる支援や応援活動をすることを目的とする。

事業名	(宝塚西谷 栗園再生プロジェクト)		
団体名	西谷農地再生プロジェクト	代表	塗家 昭彦
協働団体	JA 兵庫六甲 宝塚市果樹研究会		
活動地域	宝塚市大原野地区		
事業の 目的・趣旨	<p>宝塚市北部の西谷地区は、都心部に近くに位置しながら、農村風景が広がることが魅力であり、地域で生産される農産物は「西谷野菜」として周辺の市町でも親しまれている。しかしながら、西谷地区の人口は令和 5 年 10 月で 2,157 人(高齢化率 47.3%)で、毎年 50 人程度の人口減少が続いており、地域の担い手不足による地域の活力低下とともに、空き家や管理が行き届かなくなった農地・里山林等の増加が危惧されている。令和 5 年度に農地所有者に実施したアンケートでも、「近い将来、農業をやめたい」「規模を縮小したい」という声が 5 割を超えるなど、今後も空き農地がますます増加することが見込まれる。</p> <p>その一方で、主業・副業としての農業や家庭菜園など「農ある暮らし」を求める都市住民が増加しており、西谷地区内の市民農園等を借りたことをきっかけに地域住民と顔見知りになり、空き農地で農業を始めたり、地域の空き家を購入されたりする動きがある。こうした新たに農業を始めたい人に対して西谷地区との関わりをつくることで、農業従事者、あるいは移住者、二地域居住者等として地域を支える新たな担い手を創出することが期待される。</p> <p>そこで、農業や西谷地区に興味のある都市住民を募集し、地域住民、地元の農業従事者などが協働で、使われなくなった農地の再生活動に取り組むプロジェクトを立ち上げた。本事業では、とりかかりとして地域内で 7~8 年ほど耕作されていない栗園の再生に取り組むことで、地域内外の住民の交流から関係人口の創出を図り、さらには地域の新たなプレイヤーを発掘し、地域の農村風景を維持していくことを目指す。</p>		
事業内容	<p>①栗山の再生活動</p> <p>西谷地区の住民と地域外からの参加者との協働で、定期的に除草作業や雑木の除伐、施肥や水やり、既存樹木および、新たに植付を行った苗木をはじめ、栗山の維持管理を行った。</p> <p>また、令和 7 年 3 月下旬には新たな苗木の植付(適宜、接ぎ木による苗木生産を実施)を行い、今後も継続的に栗山が再生していくための活動を行っていく。</p> <p>②新たな参加者の確保と運営組織の充実</p> <p>主に地域外の住民を対象とし、栗栽培や地域住民との交流に興味のある参加者を募集し、本プロジェクト実施に向けた運営組織を充実させた。(現時点で活動を続ける先行メンバー 8 組 10 名に加え、令和 6 年 11 月に 7 組 10 名の追加メンバーが参加)。</p> <p>参加者は農業初心者が多く含まれるため、栗栽培の指導を行う農業技術者(JA 兵庫六甲 宝塚市果樹研究会メンバー)を外務講師として招聘した。</p> <p>③情報発信</p> <p>SNS(LINE)で運営メンバーと参加者のグループを立ち上げ、地域情報の発信や栗栽培のノウハウに関する助言など、オンライン上で自由な意見交換ができる場を作った。</p> <p>また、追加メンバーの募集に向けて、西谷地区の移住情報サイト「宝塚にしたい SMOCCA (https://nishi-tani-iju.com/)」での情報発信等も進め、活動への機運醸成を図る。</p>		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	6	5	26	第 6 回作業。園内の除草作業を実施	5	5
		7	21	第 7 回作業。園内の除草作業を実施。	5	8
		8	24	第 8 回作業。園内の除草及び伐採木の集積、処分を実施。	5	5
		9	14	第 9 回作業。収穫作業 1 回目を実施。実物を見ながら、品種の見分け方についても学習する。収穫した栗は、作業参加者へ分配。	5	7
		9	21	第 10 回作業。収穫作業 2 回目を実施。	5	4
		9	28	第 11 回作業。収穫作業 3 回目を実施。	5	8
		10	5	第 12 回作業。収穫作業 4 回目を実施。	5	6
		10	12	第 13 回作業。収穫作業 5 回目(最終回)を実施。計 5 回の収穫量は、延べ 160kg 超となった。	5	8
		11	24	第 14 回作業(第 1 期最終回)。園内の除草作業を実施。作業終了後懇親会を開催し、メンバー相互の交流を図るとともに、次期の活動方針について意見交換を行う。	7	6
		12	15	第 1 回。第 1 期からの継続メンバー及び第 2 期参加メンバーを交え、初回ガイダンスを実施。第 1 期の取組と成果、年間スケジュールの確認、相互の顔合わせなどを行った後、現地の見学を行う。	5	12
		1	26	第 2 回作業。草刈機の操作についてガイダンスを行ったうえ、園内の除草作業及びイガの集積、処分を実施。	5	14
		2	22	第 3 回作業。園内の除草作業および伐採木の処分を行うとともに、木の剪定方法に関する講座を開催する。	5	14
		3	22	第 4 回作業。敷地内に新たな苗木(2 品種 20 本)の植樹を行う。	5	

事業効果	作業を通して西谷地域内外の方との交流が行われ、参加者の中には、地域にある社会教育施設で園内管理の手伝いに参加されたり、将来的に西谷地域での就農を視野に入れ空き家視察ツアーに参加されるなど、移住の実現や関係人口の創出、及び地域の活性化につながっていく期待感が高まっている。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 11	(取組内容) 地域内外の交流を通して関係人口創出を図り、将来的な地域の担い手発掘につなげる。	(効果) 作業などを通し、栽培技術を学ぶだけでなく、地域住民や参加者同士のコミュニケーションが生まれている。 参加者の中には既に西谷地域の別の施設で園内管理の手伝いを始めるなど、地域と積極的に関わり始めている方もおり、本取組が関係人口創出に繋がっている。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 1	(取組内容) 農業に興味のある地域外の住民が、地域住民との協働により、栗栽培を進める。	(効果) 農ある暮らしに興味のある地域外の住民が参加し、栗園の再生という共通の目的に向かって取り組むとともに、地域内外の交流を生むきっかけに繋がっている。
課題及び 今後の展望	活動が継続できるよう、担い手及び自主財源の確保を図ることが必要になっている。 多くの参加者は長期的に活動に参画することを希望されていることから、活動場所の管理についてリーダーを担える方を探していくとともに、収穫された栗の一部を販売することで、プロジェクトの事業化について検討していく。		

(活動状況写真)



除草作業



収穫作業及び選別方法の現地学習



第2期初回ガイダンス
(概要説明・顔合わせ)



第2期初回ガイダンス
(現地見学)



栗の木の剪定講座

団体名 西谷農地再生プロジェクト

団体設立 西暦 2023 年 12 月 1 日

活動分野 まちづくり

設立目的 宝塚市西谷地区の農地・山林等の活用を促進するとともに、地域の担い手を発掘し、地域の活性化に寄与すること。

事業名	(いたみサン・ジョルディの日ーカタルーニャ流 本と薔薇のひろば)		
団体名	いたみサン・ジョルディの日実行委員会	代表	鹿嶋孝子
協働団体			
活動地域	兵庫県伊丹市		
事業の 目的・趣旨	<p>スペインカタルーニャ地方の文化「4月23日 サン・ジョルディの日」の趣旨・コンセプトに共感し、それを伊丹市で広める。(4月23日は日本では「子ども読書の日」であり、その周知や普及も兼ねる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブラインドボックス(ラッピング本の交換)、ブックマーケットを通じて大人、子どもの両方が本に親しむ、本に向き合う機会をつくる。 ・ 本や花を贈って感謝や愛を伝える文化習慣を知り、取り入れてもらう。 ・ 本や食を通じて異文化(本企画ではスペインカタルーニャ文化)を知り、広い世界に興味を持ってもらう。 ・ 伊丹の街の広場の活性化、新たな文化の創出をはかる。 		
事業内容	<p>いたみサン・ジョルディの日ーカタルーニャ流 本と薔薇のひろばー</p> <p>開催日時 2024年4月21日(日) 10:00～16:00 雨天決行</p> <p>開催場所 三軒寺前広場(兵庫県伊丹市中央3-2-4 クロスロードカフェ前)</p> <p>マーケットの内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブラインドボックス(実行委員会によるラッピング本の交換) <ol style="list-style-type: none"> (1) 参加者が交換する本を持参 (2) 受付でラッピング(表紙や著者名が隠れる) (3) 本を持参した人が本を表すキーワードやメッセージを書く (4) 交換本として並べる (5) 好きなラッピング本を1冊選んで持ち帰る <p>表紙や著者名が見えておらず、キーワードやメッセージを頼りに本を選ぶため、日頃自分では買わない(選ばない)ような本との出会いがある。</p> <p>4/23は「こども読書読書の日」でもあるため、子どもの参加も促進。</p> 2. マルシェ <p>古本、薔薇の花、カタルーニャの伝統菓子、カタルーニャのワインや生ハムの出店。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本(古書 みつづみ書房、トラベリングブックストア、SUS〜くらしと本のみせスウス) (2) 花(Kazuna flower life) (3) カタルーニャの伝統菓子(スペイン菓子工房デュルセ・ミーナ) (4) カタルーニャのワインと生ハム(SAKAGURA BODEGA) <p>天候状況により出店中止のなったためお店での特典のみに切り替え(イベントへの参加は継続)</p> <p>サン・ジョルディの日とは スペインのカタルーニャでは、4月23日がサン・ジョルディの日とされており、家族や恋人、友人など親しいひとの間に本や薔薇の花を贈って愛や感謝を伝え合う日となっている。街には本と薔薇のマルシェが立ち、身近なひとや、自分自身のためにプレゼントを買い求めるひとびとで賑わう。</p>		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	R6	4	15	企画会議	3 人	300 人
	R6	4	15-18	イベント告知、出店内容紹介、ブラインドブックラッピング、掲示物準備、什器準備	3 人	
	R6	4	19	備品レンタル手配、天候状況による開催方法協議	3 人	
	R6	4	21	いたみサン・ジョルディの日	8 人	
	R6	4	21	反省会	8 人	
	R6	4	22-25	反省会	3 人	
	R6	4	23-6/30	支払い業務、行政報告書作成	2 人	

事業効果	<p>伊丹では新しい文化的イベントで、新たな層のイベント参加が見られた。屋内では開放感の創出や通りがかりの参加が見込めないと判断し、予定通り広場で開催となったが、晴天時と比較して広場のけやきの木の緑が映え、しっとりとした良い雰囲気もあり、新しい場の魅力発見に繋がった。また、ブラインドボックス（本の交換会）やカタルーニャのお菓子販売には悪天候にも関わらず想定以上の方に来ていただき、関心の高さが感じられた。</p> <p>ブラインドボックス（ラッピング本の交換会）や古書店での古本販売は、すでに持っているもの・手放してもいいものを捨てずに再活用する、物を大切にすることへの取り組みに繋がっており、ブラインドボックス（ラッピング本の交換会）やバラの花の販売では、他国の良い慣習を取り入れることを通じて、人々の交流を促したり感謝の気持ちを伝えることへの意識づけへと繋がられている。</p> <p>雨天開催とあって、子どもたちの参加は想定を超えられなかったが、この事業は、開催前からの発信からコンセプトや意義を伝えていることで定着を図っている。</p>		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の 実現に向けた 取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 12	(取組内容) ブラインドボックス（ラッピング本の交換会）を実施し、自分の手元にある本を他者へと贈る機会を提供する。古本の新たな活用として価値を捉え直す。	(効果) 手放してもいい本を捨てたり、リサイクルの店やネット、アプリで売ることなく、本としての価値を見直し、必要な人、興味のある人へ渡すことで体験の価値を付加したうえで再活用が可能となり、また、交換という手法を取ることで、他者が持っているものの価値を知ることによって新しいものを買うばかりではない持続可能な消費や贈り物の機会を知ることができる。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 17	(取組内容) ブックマルシェや「サン・ジョルディの日」発祥のカタルーニャの飲食マーケットの開催で、街の中心広場にひとを呼び、ふだん街を通りすぎるだけのひとでも足をとめてもらい、にぎわいを創出する。	(効果) 伊丹の街や広場の活性化、新たな文化・交流の創出をはかることが可能。新たな街や広場のにぎわいや交流を生む機会の創出となる。天候状況により、飲食店の出店はなくなったが、雨天対策を取り予定通り広場で開催したので、にぎわいの創出には繋がらなかった。
課題及び 今後の展望	<p>雨天開催となったため、準備できる限りの対策を取ったが、雨天の際は、雨天でも気軽に楽しめる状況（雰囲気づくり、設備等の用意）をもっと強化したいと感じた。野外で開催する以上、天候の心配は避けられないため、雨天時会場を変更しない、変更して屋内で開催のいずれも、それぞれに晴天での通常通りの開催と同じようにはいかないため、工夫をもって少しでも通常に近い実施を目指すことが必要。</p> <p>天候に限らず、雰囲気づくりや場作りに関してはさらに強化し、より多くの人の関心、来場を促せるようにしたい。</p>		

(活動状況写真)



事業名

(いたみハロウィンツアー2024)

)

団体名	いたみハロウィンツアー実行委員会	代表	鹿嶋呼慈
協働団体			
活動地域	伊丹市中心市街地		
事業の 目的・趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが街を好きになる、街のお店を好きになるきっかけづくり。ツアー（お店巡り）では、子どもたちやその保護者（大人）が街のお店・事業所や街を好きになるきっかけとなり、お店・事業者を知り、お店の人・事業者と交流できる機会があることから、街への愛着が深まる機会を創出する。様々な業種のツアー協力事業者を巡ることで身近に多様な職業を感じてもらう教育的機会も作れる。 マーケット会場では、非日常のスタイルを楽しみながら誰でも参加できる内容で、子どもから大人まで、家族でも大人だけでも楽しめる企画や内容を提供することで、憩いの場、思い出づくりの場を創出する。中心市街地のみならず中心市街地域外の個店のPRの場づくりにもなる。 		
事業内容	<p>中心市街地の商業者と連携し協力をいただきながら、事業の案内や開催準備を行った。市民を中心としたボランティアスタッフと共に当日開催を運営した。</p> <p>「いたみハロウィンツアー2024」 令和6年10月26日（土） ツアー：11:00～15:00/中心市街地の個店・事業者 マルシェ&ステージ：10:00～16:00/三軒寺前広場</p> <ul style="list-style-type: none"> ツアー（お店巡り）では、中心市街地の個店・事業所を子どものグループが巡り trick or treat の合言葉でお菓子を貰う。 対象は未就学児童と小学生。 1グループ子ども10名以内と保護者。 別のイベント会場とのコラボレーションを行いルートに含む。 ボランティアスタッフを増員のうえより安全面に留意した。 ツアーに参加していない親子も楽しめるよう、三軒寺前広場にてハロウィンマーケット（主にお菓子や雑貨の物販・ワークショップブース）と子どもたちやファミリー層に楽しんでもらえる内容でのステージイベントを開催。 仮装した子どもたちのファッションショーを正規コンテンツとして開催した。（事前申し込み制） 		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	6	8	7	第一回企画ミーティングツアー協力店（スタッフ）	6	1200
	6	9	17	伊丹市協賛申請	3	
				第二回企画ミーティング（事業者）	5	
				出店者募集開始	2	
	6	9	27	ステージ出演者交渉開始	2	
				以降、随時チャットグループでも連絡、情報共有	40	
	6	10	14	第三回企画ミーティング	5	
	6	10	15～20	第四回企画ミーティング、出店者締め切り	3	
	6	10	21	第五回企画ミーティング	8	
	6	10	22～25	最終準備	3～6	
	6	10	26	いたみハロウィンツアー当日	40	
	6	10	27～	メール、チャット等で情報共有	35	
	6	11	13	振り返りミーティング	12	
				アンケート取りまとめ、報告	3	
				写真の公開	3	

事業効果	<p>ツアー参加者からは、子どもたちが楽しめたことのほか、親が知らなかったお店(事業者)を知れたことや気になっていたお店(事業者)に行けたこと、お店(事業者)と交流できたことについてたくさん嬉しい感想をいただいた。多くの保護者から喜びと感謝の声があった。</p> <p>協力店(事業者)からは、子どもたちの笑顔や子どもたちとのふれあいがあることを喜んでくれたことのほか、店(事業者)を知ってもらう機会になったこと、普段のターゲット層以外の方々と出会えたこと、まちが活気づいたことや今回の取組でまちや市民・住民に貢献できたといったことを喜んでいただけた。</p> <p>都市部ではないまちで、仮装して遊びに来れるということ、「ちょうどよい」規模感や内容がよいと好評で、期待をしていただいている。</p> <p>ツアー協力店、マルシェの出店者やステージ出演者、ボランティアスタッフがハロウィンの仮装をして工夫したりと、それぞれに当日を楽しんだことでさらに盛り上がった。</p> <p>まちや事業者の魅力再発見の機会、楽しい場の提供、まちの新たなにぎわい創出ができ、いい思い出づくり 活気づくりになったと思う。</p>		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の 実現に向けた 取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 17	(取組内容) 街の良い思い出づくりや街を知る 機会を創出、提供。	(効果) 街歩きや商店・事業者との交流、楽しいイベント参加の体験により、子供達が自分の住む街を好きになるきっかけとなり、街への愛着を持つのに繋がった。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 17	(取組内容) 伊丹市の中心市街地の商店事業者を巡るツアーと三軒寺前広場にて 飲食店や小物雑貨店によるマルシェとステージイベントを開催。	(効果) ツアー、広場のマルシェ・ステージに多数参加、来場いただいた。ツアーの商店・事業者の好意的な協力、マルシェの出店者やステージ出演者のイベントのコンセプトに沿った場の盛り上げにより、中心市街地のにぎわいを創出できた。
課題及び 今後の展望	<p>混乱を避けるため、ツアーの参加申込方法や当日受付方法を改善できた。</p> <p>年々認知度が上がり注目度も高まってきているので、創意工夫を凝らし期待に応えていくことで、商店・事業者との交流、まちなかのにぎわいづくりに活かし、まちの発展や住民・市民のまちへの愛着づくり、市外からの伊丹のファンづくりにさらに貢献したい。</p> <p>新コンテンツのファッションショー(事前申し込み)は応募があまりなかった。告知 PR を強化したい。</p>		

(活動状況写真)



団体名 いたみハロウィンツアー実行委員会

団体設立 2023 年 4 月 1 日

活動分野 ハロウィンイベントの企画・運営

設立目的 伊丹の街をより面白く楽しい街にする、伊丹のファンづくり。
伊丹市内で老若男女を問わず面白い 楽しくなるイベントの企画運営を行ない、地
元住民と商業者との新たな出会いや絆を深めることを目的とする。

事業名						
(相続空き家・農地等対策による持続可能なまちづくり事業づくり事業)						
団体名	一般社団法人地方創生パートナーズ			代表	三坂 友章	
協働団体						
活動地域	伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町					
事業の 目的・趣旨	<p>少子高齢化に伴う人口の減少が進む中で、相続空き家、農地等の管理や処分を検討する人が増加している。こうした相続空き家、農地等に関わる様々な課題をその所有者だけの問題としてではなく地域全体の問題として捉え、相続空き家、農地等の適切な管理の普及活動を行うことで持続可能なまちづくりへと繋がる活動をするを目的とする。</p>					
事業内容	<p>①セミナー 相続空き家、農地等の管理や処分に関心のある自治会や市民等に対し、司法書士、行政書士、土地家屋調査士等の法律の専門家や不動産の実務に携わるメンバーが相続空き家、農地等の対策についてセミナーをおこなう。</p> <p>① 相続登記の申請義務化等新制度の周知 ② 空き家未然対策のポイントは？</p> <p>②個別相談 相続空き家、農地等の管理や処分に関心のある自治会や市民等に対し、司法書士、行政書士、土地家屋調査士等の法律の専門家や不動産の実務に携わるメンバーが個別相談を行う。</p>					
スケジュール	実施日 (年-月-日)			事業概要	参加人数 (人)	
					スタッフ	一般参加者
	6	7	12	セミナー & 個別相談会 (伊丹市立文化会館)	7	15
						1
	6	7	21	セミナー & 個別相談会 (猪名川町日生中央公民館)	8	14
						3
	6	9	20	セミナー & 個別相談会 (川西市アステホール)	7	10
						4
	6	11	12	セミナー & 個別相談会 (伊丹市スワンホール)	9	10
						2
	6	11	18	セミナー & 個別相談会 (宝塚市立中央公民館)	8	12
						3
	6	12	15	セミナー & 個別相談会 (猪名川町日生中央公民館)	2	8
						0
	7	1	14	セミナー & 個別相談会 (三田市まちづくり協働センター)	9	3
						3

事業効果	<p>相続空き家・農地等の適正な管理、対策を行うことにより、地域で相続空き家・農地等が放置されるリスク（景観、防犯、防災等）を減らし、より住みよい環境となるような持続可能なまちづくりの意識の向上を図ることができた。</p> <p>相続空き家、農地等所有者本人だけでなく、家族、地域の問題として世代を超えた共通課題であり、世代を超えて考えていくことでつながりや相続空き家や農地（耕作放棄地等）の課題や対策を周知することで地域住民の意識を高めることができた。</p> <p>相続空き家、農地等問題の啓発から発生し、他の社会的課題の解決につながっていった。また、他地域へ拡大を図ることができた。</p> <p>当団体の取組が、全国の同様の団体の先進的モデルとして、また、相続空き家・農地等を所有している人たちの悩みの解決につながっていくきっかけとなった。</p>		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 11, 12	(取組内容) 相続空き家・農地等対策	(効果) 相続空き家・農地等の処分・管理方法を周知し、地域の問題とするとともに、空き家や耕作放棄地等を有効利用ができた。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 9, 10	(取組内容) 相続対策について世代間を超えて検討していく。 本人だけでなく地域で考えていく。	(効果) 多くの人に相続空き家・耕作放棄地の課題を周知し、世代を超えて考えてもらうきっかけとなった。また、地域の課題として周知することができた。
課題及び今後の展望	<p>2025年以降団塊の世代が全員75歳以上となり、また、多死社会を迎える。</p> <p>相続人のいないおひとり様、相続人が相続を放棄し、結果、空き家、所有者不明土地リスクが高まっている。</p> <p>本事業を通じ、空き家、空き地一体型・総合的対策だけでなく、遺贈寄付制度を活用した社会全体で考えていく仕組みや人材育成を行っていく予定である。</p>		

(活動状況写真)



団体名 一般社団法人地方創生パートナーズ

団体設立 西暦 2020 年 6 月 1 日

活動分野 空き家、空き地対策を通じたまちづくり

設立目的 当法人は、国、自治体、事業者及びNPO法人等各種団体との連携・協力により、空き家・空き地対策等まちづくりの相談・支援をすることにより、まちづくりの推進を図ることを目的とする。

事業名（里山林をつくろう -人工林の伐採から-						
団体名	NPO 法人 コクレオの森				代表	藤田 美保
協働団体						
活動地域	兵庫県川西市黒川					
事業の目的・趣旨	本来里山林は、土砂の流出防止、地下水の水量調整、生物多様性など多機能を有するが、森が放置されているのでそれらが機能しなくなっている。 本事業では、針葉樹を伐採、丸太にして市場に販売し、その後に、広葉樹を植樹することで、里山本来の力を取り戻し、小さな生業の創造、減災、生物多様性の保全、関係人口の創出をしていく。					
事業内容	《内容》 里山林や自伐型林業についての座学、伐採、丸太づくり、道づくり、間伐、皮むき、薪づくり、シカ対策ネット張り、どんぐりの植え付け、木工品づくり。 《概要》 日時：奇数月の第 3 土曜日 時間はいずれも 10 時～15 時 対象：小学校 5 年生以上 15 名 場所：川西市黒川里山センターとその周辺地域 《スタッフ体制》 運営は、黒川里山センター（NPO 法人コクレオの森）スタッフ。講師は地域で自伐型林業を進めている、黒川里山再生・山活の会。					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	6	5	18	① 里山林についての座学、伐採のデモンストレーション、個人で木を伐る。	4	8
	6	7	20	② 歩道づくりと樹木の伐採、簡単な座学、薪づくり	5	18
	6	9	21	③ 歩道づくりと樹木の伐採、重機を使って木を切る一連の作業を見てもらう。ユンボによる道づくりのデモンストレーション	5	9
	6	11	16	④ シカ対策のネット張り、植樹	5	11
	7	1	18	⑤ 植樹、ピザを焼く、スウェーデントーチ作り	5	6

事業効果	全体で延べ 52 人の参加があった（内 小 5～大学生延べ 10 人）。参加者の中には、イベントの日以外にも今回の活動地で作業をする人がいた。その中で自発的にチェーンソーや小型ユンボの講習を受けたり、他地域への視察に行ったり、黒川やその周辺の場所で山の管理や畑を始めたりする人もいて、お客さんとして参加するだけでなく、主体的に里山管理に関わる人が生まれた。当初の目的通り、「参加者が黒川へ通ってくれるような導線を引き、里山づくりを担ってくれるような次世代を育てる」という部分は達成できたと思う。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 15	(取組内容) 針葉樹から広葉樹の森づくり	(効果) 里山の機能（生物多様性保全、水源涵養機能、土砂災害防止機能等）と自伐型林業という持続可能な小さな生業について体験を通して知ってもらえた。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 12	(取組内容) 100 年先を見据え、針葉樹と広葉樹が適度に入り混じった多様な森づくりを行った。	(効果) 地面に光を当てて豊かな植生にすることで、保水力向上、表面浸食防止などが期待できる。土砂災害を防止する里山へ。
課題及び今後の展望	里山林の活動は、重機や獣害対策ネットの購入など、経費がかかる。今後は加工品の販売や企業の受け入れなど、活動経費に充てられるような事業を生み出していきたい。山活の会ができたばかりの団体なので、今年度は黒川の自治会や北摂の自然団体にあいさつしながら活動していった。土地の境界線や里山管理の手法など、それぞれこだわりのある方が多いので、地域の理解や縦横斜めの関係性を大事にしながら活動していきたい。		

(活動状況写真)



間伐



作業道作り



作業道作り



獣害対策ネット張り

団体名 NPO 法人コクレオの森

団体設立 西暦 1999 年 10 月 9 日

活動分野 社会教育、まちづくり、子どもの健全

設立目的 子どもの主体的な学びと自立的な成長を支援する新しいタイプの学校の設立ならびに運営を中心とし、生涯教育、まちづくり等に係る事業を行い、豊かで充実した社会づくりに寄与することを目的としています。

事業名	(AFRICA with LOCAL 2024 ～AFRICA YOICHI～)
------------	--

団体名	with LOCAL 実行委員会			代表	松尾 誠介	
協働団体	伊丹市中心市街地活性化協議会					
活動地域	伊丹市					
事業の 目的・趣旨	「異なるルーツを持った子ども達が自己肯定をもって過ごせるように」をテーマとし、近年増加傾向にある在住外国人だけでなく近い将来確実に増えるであろうその子ども達、いわば「肌の色だけが違う子ども達」が地域に馴染めるように、アフリカンおよび海外をルーツにもつ人々とのアートおよび通訳配置やダンスなどによる「言語のいらない国際交流」を行う。またアートに限らずマルシェやファッションショーなども開催し、そのコンテンツと雰囲気に触れることでグローバル意識を育む。また実行委員会に在住外国人も参加予定で、ただその場に人を集めるのではなく運営の場面から地域共創を行う。					
事業内容	<div>・ 開催日時 2024 年 9 月 29 日 (日) 17:00-20:30</div> <div>・ 開催場所 伊丹三軒寺前広場 〒664-0851 兵庫県伊丹市中央 2 丁目 9-2 9</div> <div>・ 内容 マルシェ/音楽/ダンス/ファッションショー/ワークショップなど ステージ付のマルシェ方式で開催</div> <div>・ 参加者 伊丹市民および阪神北からの参加者を中心に、 およそ 200 人が来場</div>					
スケジュール	実施日 (年-月-日)			事業概要	参加人数 (人)	
					スタッフ	一般参加者
	6	5	10	実行委員会キックオフ	13	200
		6	13	ショー/ マルシェ公募交渉	1	
		6	26	イベント開催告知 (関係者のみ)	1	
		7	18	開催日変更検討 MTG	7	
		8	15	開催日変更決定 MTG 打ち合わせ	7	
		8	24	コンテンツ制作	5	
		9	4	イベント開催告知	1	
		9	28	前日準備	10	
9		29	イベント当日	15		

事業効果	<p>本来 8/31 開催の予定であったが、酷暑の影響から 9/29(日)に開催日を変更。また同日 JC 伊丹による主催イベント「伊丹万博」が開催。そちらのイベントと一部連携しながら実施した。</p> <p>結論から言うと、参加人数に関しては予想を下回る結果となった。一方伊丹万博のフィナーレに開催されたアフリカコンテンツが非常に盛り上がり、(それが AFRICA with LOCAL であると勘違いが起きてしまうなど) 結果としてその影響から本事業の入入りは限られてしまったが、「地域 x アフリカ」をテーマに地域民のファッションショー出演や、地域民 x アフリカンパーカッションのセッション、マーケット出展などは無事行うことができた。</p>		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 17	(取組内容) 実行委員会にアフリカンルーツのスタッフが所属。準備撤収まで一緒に行うことで一つのコンテンツを共創し、双方コミュニケーションを行う。	(効果) 撤収段階では一部通訳を行いながら英語でアフリカン達とコミュニケーションをとって行った。少ない数ではあったもののこれを機に繋がりを持てた方々も多く、ミニマムな形ながらも一定の効果は得れたと感じている。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 4	(取組内容) アフリカンダンス&パーカッション、アフリカンクロスによるファッションショー、そのモデルを市民が務め、プロのモデル講師とヘアメイクアーティストにより場を演出する。	(効果) ショー自体は成功し、非常に評判の良いものとなった。参加いただいた地域民の方々にも良い思い出になり、また多くの写真を撮影いただいたので、そちらを思い出に少しでも多文化共生推進の一助となっていたくことを祈りたい。
課題及び今後の展望	<p>集客面では課題を残したものの、「言葉のいらない国際交流」というテーマのもと開催したコンテンツによる一定の実績、夜開催かつミニマムという新しい形の可能性とノウハウを得ることができた。この経験を活かし、次回に繋げていきたいと考える。</p>		





団体名 with LOCAL 実行委員会

団体設立 西暦 2022 年 2 月 1 日

活動分野 多文化共生

設立目的 本会は、地域活性化およびグローバル化の素養をテーマとした各種事業を展開し、それらを次世代を担う青少年の健全育成と、近い将来必ず増加が予想される「肌の色の違う子ども達」を地域がより受け入れやすくすることをミッションとして行うことで、市民のみなさまと共に豊かな未来を繋いでいく事を目的とする。

事業名	(いたみおーがにつく市グリーンツーリズム)		
団体名	食の未来を創る会	代表	西浦有衣子
協働団体	阪神北バスツーリズム実行委員会		
活動地域	伊丹市を軸に、阪神地域全域		
事業の 目的・趣旨	<p>伊丹市の南にある稲野公園は、週末になると親子連れが訪れる地域に愛されている公園である。全ての人を繋ぐ「食」を通して、多世代が交流する活気あるまちづくりを目指す。一方、日本において「食」をとりまく環境は大転換の時を迎えている。つまり、農業人口の減少で耕作放棄地は拡大し、さらに日本全体の人口減少の加速により、食料自給率は今後さらに落ちこむことが懸念される。人と環境にやさしい農業は手間暇がかかる、その想いを大切にして作る人と、都市の食べる人が顔の見える関係になることで、「食」について共に考え行動し、地元食材を買い支えることの大切さや未来を担う子どもたちの健康とその可能性のための持続可能な環境について考えるきっかけとする。バスツーリズムで実際に農村に出かけ、さらなる交流を図り、意識の醸成に繋げる。</p>		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部による関係先(自治協議会・出店者・企業・近隣保育園等教育機関・農村型自治体など)への協働の依頼 ・「いたみおーがにつく市」と「バスツーリズム」の開催 <p>開催日時:いたみおーがにつく市 2024 年 7 月 21 日(日)・11 月 17 日(日) バスツーリズム 2024 年 11 月 23 日(土)</p> <p>開催場所:いたみおーがにつく市 伊丹市 稲野公園(自転車公園) バスツーリズム 阪神地区～丹波地方</p> <p>開催内容: 阪神地区をはじめとした兵庫県産品として、人と環境にやさしい農作物やその加工品の出店・販売をしてもらった。兵庫県は全国で一番多くの市町が国の推進するオーガニックビレッジ宣言に参画しており、それらの自然豊かな有機県産品を伊丹市でいたみおーがにつく市、バスツーリズムを通して販売・見学したことにより、兵庫の魅力の発信、都農共生への消費者への啓蒙も行いながら、有機農業の振興につなげることができた。</p>		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	6	4	29	執行部打ち合わせ	5	約 200
		4	30	自治協議会との打ち合わせ	2	
		5	16	協働団体との打ち合わせ 第一回実行委員会	8	
		6	17	丹波篠山市長表敬訪問	4	
		6	20	第二回実行委員会	7	
		7	17	現地下見	3	
		7	18am	第三回実行委員会午前オフライン	3	
			18pm	第三回実行委員会午後 zoom	5	
		7	21	第三回いたみおーがにつく市	5	
		8	15	第四回実行委員会	3	
		9	19	執行部打ち合わせ	5	
		10	17	第五回実行委員会	5	約 900 20
		11	11	臨時ミーティング zoom	9	
		11	17	第四回いたみおーがにつく市	14	
		11	23	バスツーリズム	4	
		12	10	執行部反省会 報告書確認	3	

事業効果	今年度初めて伊丹市中学校に兵庫県産の有機農産物が導入されました。7/11 と 10/24 には生徒向けに農家さんによる食育講話が行われました。その農家さんに、いたみおーがにつく市に出店してもらうことで、切れ目なく継続してご縁を繋ぎ、農村と都市が顔の見える関係への意識の醸成を図ることができました。校長先生や伊丹市教育委員会等行政や議員等の視察が増えました。保護者と生徒との出会いもありました。そんな中バスツーリズムの募集をしたところ、すぐにキャンセル待ちになるほど、農村への関心が高まりました。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 15	(取組内容) 人と環境にやさしい農は生物多様性を取り戻し、また、それらを創造・活用する農業であるという公共的価値を PR した。	(効果) 地球の循環を大切にしたい農は、環境を創造する公共的価値と共に、未来を担う子どもたちの健康と可能性に寄与するといった私的価値にとどまらない意義を感じる効果があった。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 9	(取組内容) マルシェという楽しいイベントにより、多様な人たちが集える場を創出した。	(効果) 全ての人を繋げる「食」を通してまちづくりをすることで、多世代交流ができ、また各地からの出店により、地域間の交流を図る効果もあった。
課題及び 今後の展望	<p>マルシェの課題 電源の少なさで。イベントスペースと出店者間において今後電源の確保が課題である。</p> <p>マルシェの展望について 来年は豊かな但馬地域より、朝来市と豊岡市も出店に前向きである。都市の人が兵庫の豊かさを感じ、農村あってこそ都市があるということを再認識し、農村への関心、つまり農を担う人の苦労、減少について共に考え支えるきっかけとなるような場にしたいと考えている。また、世代間や地域間の楽しい交流の場となり、県全体をとらえた地域づくりへの理解醸成が進むことを展望としている。</p> <p>バスツーリズムの課題 バス代金の高騰。来年以降の実施は補助金無しには厳しいと考えている。</p> <p>バスツーリズムの展望 来年以降は関係者だけの視察・訪問になる可能性が高いと考えている。農村への関心は高まっているが、あいにく県のバスツーリズムへの補助金が現在無くなっていると認識しており、バスツーリズムという企画に展望を見いだせるか不透明である。</p>		

(活動状況写真)

別紙

団体名	食の未来を創る会
-----	----------

団体設立	2021 年 5 月 7 日
------	----------------

活動分野	環境保全 青少年の健全育成
------	---------------

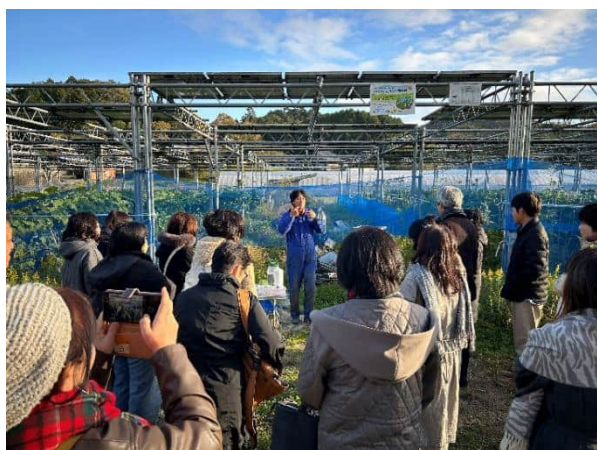
設立目的	地球環境の保全と未来を担う子どもたちの健全育成のために、その土台となる「ケミカルフリーな食と農」をより身近な選択にすべく、微生物を大切にする農業や地球環境への意識を広げる活動を行うことを目的として設立した。
------	---



大変暑い中の開催となりました。この時期は夏野菜が充実しています。有機先進市である養父市からの初出店を迎え、また、イベントスペースでは夏らしく伊丹太鼓の出演がかないました。猛暑によりあいにく来場者は振るいませんでしたが、様々な初の試みを行い、今後に向けて課題を整理する機会となりました。そんな状況でも、各出店者からは評価を得ています。来場者のオーガニックへの理解・意識が高く、販売数に繋がっており、手間暇をかけた農産物や加工品を求める人が多いことがうかがえました。今年7月11日に初めて伊丹市中学校給食に有機農産物導入となり、給食に納入した養父市の農家さんのマルシェ出店、そのことにより、顔の見える関係が続き、食べる人と作る人を繋ぐことや、都農共生への意識醸成に繋がればと願っています。



雨が心配されましたが、無事開催し、大変な賑わいとなりました。今回は初めてキッチンカーがお目見えし、イベントスペースにおいて、こちら初のお野菜かみしばいを、連携する尼崎のママチームが行ってくれました。また、本部テントでは、'タネ BOX'の設置を試験的に行いました。日本はタネの生産の95%を海外に依存していると言われています。日本人として、命の源である「食」を守り、未来の子どもたちに安全な食を繋ぐためには、「タネの自給」への関心が高まることが求められています。BOXの前はほとんど人が途切れることなく、思い思いに貴重な固定種、在来種のタネを手にとっていました。自分の手で畑に取り組む人が増えていることを実感しました。今回も養父市が「市」として出店、有機生産者さんたちが豊かな但馬の農産物や加工品を出品してくれました。10月24日に伊丹市西中学校にて、第一学年200名向けに養父市生産者による食育講話が行われ、講話の中でマルシェの紹介もしてもらいました。今後も都市と農村が顔の見える関係を通して、互いの市民が都農共生の未来について考えていくことに繋がればと考えています。



まずは丹波篠山市の有機農家の代表的存在である酒井菊代さんにお会いし、黄綬褒章のお祝いをお伝えし交流しました。次に里山資源を余すところなく活用するために尽力している吉良農園さんを訪問。霧雨が丹波地方らしく時折降る中、森に人が関われなくなった歴史・現状と、今後いかにしてプロジェクトに結び付けて里山資源を活用しようとしているかの努力について説明を受け、参加者は熱心に聞き入っていました。質問が活発に行われ、資料にもしっかり目を通していました。お弁当は貴重なオーガニックビーガンに取り組む篠山市のお店のものでした。味噌づくりワークショップでは、移住してきた当時の話を聞くことができました。食卓に並ぶ農産物が当たり前でなく、農家さんたちの絶え間ない努力によって頂くことができることに気づき、農家になった話しに、皆感動している様子でした。宝塚西谷の農家さんからは都市農業について興味深い説明がありました。参加者同士の個別の交流が生まれるような大変有意義なバスツアーリズムとなりました。

事業名 (多田東地区災害小史の作成活用並びに防災ハイキング)					
団体名	多田東コミュニティ自主防災会			代表	東畑 泰敏
協働団体	多田東コミュニティ協議会 文化・スポーツ委員会				
活動地域	川西市 (多田東小学校区内)				
事業の 目的・趣旨	<p>多田地区は昔から数多くの災害(水害)に見舞われ、猪名川の恐ろしさを体験してきました。高度経済成長期前までは、水害が発生しても住宅は高台に有り(一部多田駅周辺を除き)田畑が水につかる程度で済みましたが、低地部が開発、宅地化された今、大災害につながる可能性があります。</p> <p>又、現代低地部にお住まいの方は猪名川の恐ろしさを体験された方は少なく災害史を作成して、自分たちの街で、以前に起こった災害状況を知り、来るべき災害(1000年に一度)に備え、過去の教訓を学ぶことが必要不可欠です。地域を散策し地域の防災施設や水害記念碑を見学、浸水表示板等を見学することで浸水状況を確認し防災意識の向上を図る。</p>				
事業内容	<p>地域の文化・スポーツ委員会と連携、計画し防災ハイキングを楽しんで頂くと共に過去の浸水状況を確認、水害の恐ろしさを浸水表示板等で確認して頂くとともに、災害小史・防災ハイキングの葉を活用し現地説明を行う。又、記念碑等の見学学習も行う。</p> <p>・多田東地区災害小史の発表会(説明)、並びに川西市防災出前講座の開催(水害編)</p> <p>開催日時 : 令和6年9月1日(日) 10時~12時</p> <p>開催場所 : 多田東会館 2階 大会議室</p> <p>内 容 : 多田東地区災害小史の発表並びに川西市防災出前講座の開催(水害編) 講師 川西市 地域防災マネージャー猪俣倫夫様</p> <p>参加者 : 参加者33名、延べ人数45名</p> <p>・多田東地区防災ハイキングの開催</p> <p>開催日時 : 令和7年1月19日(日) 9 9時~12時30分</p> <p>開催場所 : 多田東地区内(集合・解散 多田東会館)</p> <p>内 容 : 多田東地区内を散策し健康増進を図るとともに、災害小史・防災マップを活用し、過去の災害状況の現地説明を行う。又、防災設備や水害記念碑を見学、各所に設置してある浸水表示板を確認することで地域の浸水状況確認を行い、防災意識の向上に務める他、記念碑等の見学学習も実施した。</p> <p>参加者 : 参加者55名、延べ人数70名</p>				
スケジュール	実施日(年-月-日)			事業概要	
				参加人数(人)	
				スタッフ	一般参加者
	6	5	12		
		5	21	3名	
		8	4	10名	
		9	1		
				12名	33名
		10	6	12名	
			20	15名	
		12	15	12名	
		1	19	15名	55名
		2	16	15名	

事業効果	<p>多田地区は昔から数多くの災害に見舞われ、特に猪名川の洪水の恐ろしさを体験してきました。</p> <p>現在は、河川改修、一庫ダムの水量調整が進み、浸水被害は発生せず小康状態を保っています。</p> <p>近い将来に発生する地震や地球温暖化に伴う気象変動による集中豪雨の頻発化のことを考えれば、安心してはいられません。次々と襲ってくる災害に対し、過去の災害に関する知識と教訓について学習し、地域の特性を正しく把握する必要があるため、災害小史を作成し、勉強会を実施することで、防災・減災の施策に役立てることが出来る。</p> <p>また、防災ハイキングを実施することにより、地域の浸水状況を肌で感じてもらい、防災・減災に関心を持っていただくとともに、ハイキングを楽しんで頂きました。</p>		
SDGsの推進、 阪神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	1 SDGsの推進		
	(目標番号) 1 1	(取組内容) 災害小史を作成、説明会を開き、防災ハイキングを開催することで地域の地形・地質特性、過去の災害を知り、防災意識の向上に努めてもらう。	(効果) 災害小史を全戸配布し、学ぶことで今後どういった災害リスクが発生するかを事前に把握してもらい、防災意識の向上につなげた。
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ) 1 2	(取組内容) 災害史を勉強し、防災ハイキングで記念碑や浸水表示板を確認することで地域を知り、過去の災害を知り、防災意識の向上に努めてもらう。	(効果) 地域の災害特性を知り、災害時の個別避難計画や防災訓練に役立てたい。
課題及び今後の展望	<p>過去の災害史の掘り起こし（写真等）や地域内の危険個所の洗い出しを行い、災害史の充実を図る。又、マンネリ化を防ぐため、防災ハイキングは3年に一度程度実施、その他の年は、地区内新発見ウォーキング（危険個所の発見等）を行う。事業は自主防災会事業の一つとして予算取りを行い実施し、防災訓練や個別避難計画に役立てる。</p> <p>次回の夢づくり応援事業（3回目）は子供たちと一緒に防災について考えるような事業にチャレンジしてみたい。（防災キャンプ）</p>		

(活動状況写真) 災害史の発表会



防災ハイキング（記念碑）説明状況



団体名	多田東コミュニティ自主防災会
-----	----------------

団体設立	西暦 1999年 月 日
------	--------------

活動分野	防災・減災活動
------	---------

設立目的	住民協働の精神に基づく自主的な防災活動を行うことにより、地震その他の災害による被害の防止及び軽減を図ることを目的とする。
------	--

災害小史発表会説明状況



川西市防災出前講座 説明状況



災害小史発表会 展示物説明状況



防災ハイキング 出発前説明



こんにやく橋説明状況



排水ポンプ説明



河川改修説明



洪水パイプ取水口説明



多田東小学校災害史授業風景



事業名 (耕作放棄地で子供たちと農・収穫体験・味噌作り)						
団体名		HATA むすび			代表	長畑 香奈子
協働団体		赤い羽根共同募金				
活動地域		猪名川町 川西市				
事業の目的・趣旨		<p>コロナ渦に幼い子供とその母がでかけられる場所は激減しました。母子で引きこもって暮らしていた児童に発達の遅れがでています。遅れた発達を取り戻すためには、自然の中での活動は欠かせません。畑には様々な生物がおり、四季折々の変化を体感し、その中で遊ぶ。</p> <p>まずは食べ物から自然を感じることができるようになれば、食べ物が生き物であることを知り、無駄にはできなくなり、フードロス削減につながります。</p> <p>無農薬栽培を行うことで豊かな地域の自然環境を保護し、豊かな里山を次世代に継承していきたいと考えています。</p>				
事業内容		<ul style="list-style-type: none">・ 野菜の収穫体験・種まき・ 畑整備 子供たちが安全に活動できるよう畑を整地・整備した。・ 広報活動の強化 Instagram 公式ライン配信 地域の幼稚園・保育園・児童館を中心にチラシの掲示をした。・ 畑でとれた作物を、調理加工し、食べるイベントの開催・ 獣害被害にあった畑を、子供たちの手で整備した。 <p>週に 1 回程度の畑作業 4 月～ 12 月 スタッフ 3 人× 4 時間 </p>				

事業効果	<p>心身の発達への効果</p> <p>自然とのふれあいや農作業体験を通して、子どもたちの体力の向上や精神的な成長を促すことができた。畑での活動を通じて生物多様性への理解が深まるとともに、将来の職業選択の視野を広げる効果もあったようです。耕作放棄地を畑として再整備する過程を体験することで、農業や自然環境保全の重要性への理解が深まりました。また、収穫の喜びを感じることで、自然とのつながりを意識する力も育まれたように見受けられる。</p> <p>フードロス削減への効果</p> <p>農作物の収穫から調理体験を通して、シンプルな調理でも良い素材はおいしいと体感してもらうこと、畑で育つ野菜の生育を体感することで、食べ残しが減った・野菜を食べるようになったとの意見が寄せられ、食材への意識改善が見受けられた。これにより、持続可能な食文化の形成に貢献し、地域内での食品の循環が促進される効果が期待される。</p> <p>里山の次世代継承への効果</p> <p>農作業や自然の体験を通じ、子供たちの手も借りて耕作放棄地を畑として整備しなおした。獣害もあったが、生物の多様性を体感する機会として、柵の設置など日常ではできない体験を提供することもできた。</p>		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 3	(取組内容) 子どもたちとその保護者と畑に出かけ食への意識改善を目指す	(効果) 娯楽のための食ではなく、生きるため、心身発達のために必要な食を体で感じてもらった。また、畑への興味とつながれた。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 5	(取組内容) 地域の耕作放棄地を子供たちの農業体験の場とすることで環境改善を目指す	(効果) 有機農業で多様な生物と共生する自然環境を保護し、それを子供たちに見てもらうことで体感へとつながれた
課題及び 今後の展望	<p>課題は酷暑と獣害によるイベントの中止・変更。熱中症警戒アラートも発令され、屋外イベントは中止せざるを得ないときもある。令和6年度は母子のニーズに合わせて屋内の調理イベントに変更したところ好評を得た。</p> <p>令和7年度は黒川里山センターを活動の場とし、プランターでの種まき、栽培（畑へ移植するものも含む）、畑で収穫した農作物を調理、加工するイベントを行う予定。</p> <p>同時に、ヨガクラスや親子散歩（野草つみや、生物観察）を開催し、産後の母の体力強化をすすめつつ、種まきや水やりなどの農作業体験、土鍋ごはん炊きと、季節の味噌汁を母子ともに作るイベントを開催することから始めていく。次第に、畑への興味がでてきたら、随時畑イベントも開催していく。</p> <p>また、若い母たちにとって、ともに yoga をし、体のつらい症状を緩和した後に、ご飯をつくってみんなで食べることが対人関係練習の場になっているとの声も上がった。より安心・安全な場の提供を心掛けていく。</p>		

(活動状況写真)

1. 玉ねぎ収穫体験



- ・2024年5月18日 10時～
- ・猪名川町万善の畑
- ・大人4名 子供8名 スタッフ 3名
- ・玉ねぎ収穫・季節の野菜収穫（ごぼう・葉物）

2. 玉ねぎ収穫体験



- ・2024年6月2日 10時～
- ・猪名川町万善の畑
- ・大人1名 子供4名 スタッフ 2名
- ・玉ねぎ収穫・カエルや生き物観察・近隣田んぼ散歩

3. ジャがいも収穫&大豆植え付け



- ・2024年6月15日 10時～
- ・猪名川町 万善の畑
- ・大人2名 子供5名 スタッフ4名
- ・ジャガイモの収穫、大豆種まき

4. かぼちゃだんごでお月見パーティー



- ・2024年9月20日
- ・北陵公民館
- ・大人5名 子ども7名 スタッフ4名
- ・畑で収穫したかぼちゃで月見だんご・おやきを子どもたちと作りました。

5. おやこ遠足 畑近隣散歩



- ・2024年10月30日 10時～
- ・猪名川町雲覚寺 近隣散歩
- ・大人2名 子供2名 スタッフ2名
- ・川西市自主グループよいこクラブの畑の野菜や花を観察、森を散歩しながらどんぐりや栗、エビやカエルなどいきもの観察し、シャボン玉であそびました

6. 畑を守ろう！プロジェクト



- ・2024年11月14日 13時半～
- ・猪名川町万善の畑
- ・大人4名 子供14名 スタッフ 3名
- ・獣害にあった畑の整備をしました。獣の生態を学び、防草シート・獣害策の設置をこどもたちと行いました。

7. 季節の収穫体験・焼き芋



- ・2024年12月1日
- ・猪名川町万善の畑
- ・大人4名 子供 6名 スタッフ 2名
- ・大根の収穫・じゃがいも堀り、火起こしから焼き芋づくりをしました。

8. 季節の収穫体験、いろいろ焼き大会



- ・2024年12月15日
- ・猪名川町万善の畑
- ・大人1名 子供5名 スタッフ 2名
- ・大根の収穫・じゃがいも堀り、じゃがいもと焼き芋、リンゴ、食パンにチョコレートを挟んだものなど、すきなものを焚火で焼きました

9. 味噌づくり体験



- ・2025年1月23日 10時～
- ・北陵公民館
- ・大人5名 子供5名 スタッフ4名
- ・国産大豆と地元の麴でこどもたちと味噌を作成。

10. HATAYoga&ごはんの日・葉物種まき



- ・2025年3月12日 10時～
- ・黒川里山センター
- ・大人9名 子供9名 スタッフ4名
- ・畑で収穫した大根の味噌汁、節分豆で入り大豆ごはんを鍋で炊きました。米をこどもたちにといでもらい、水に浸す間大人はyoga、こどもは絵本やおもちゃで遊びました。遊び疲れたこどもも、体を動かしたおとなも、鍋でごはんを炊いて食べました。食後はプランターに青菜の種まきをしました。

11. 菌ちゃん畝づくり



- ・2025年3月22日9時～
- ・猪名川町万善の畑
- ・大人3名 子供9名 スタッフ 3名
- ・化学肥料や農薬に頼らない、菌ちゃん農法で畝づくりをこどもたちと行いました。

団体名 HATA むすび

団体設立 西暦 2023 年 9 月 30 日

活動分野 こども農自然体験・食育

設立目的 こどもの心身健やかな発達
子の世界をつくる母の心身の安定
自然環境保護
フードロス削減

事業名

(ふれあい大会

)

団体名	ふれあい大会実行委員会			代表	西 克宏	
協働団体	高平区長会の他高平地区の 20 団体					
活動地域	兵庫県三田市高平地区					
事業の 目的・趣旨	親子でふれあうキャンプファイヤーからスタートして、親子のみの開催から地域の方々にもご協力頂き大会を重ねて、コロナ禍で開催出来ない 1 年も乗り越えて、子ども達の笑顔の為、地域の方々に大きな力を貸して頂き、少子高齢化の中で今まで子ども達の為に、ご尽力頂いた地域の方々と共に今後は多世代交流が図れる大会として今まで続けて下さった方々と共に継続していきたい。					
事業内容	ステージ発表、出店を通じて、地域の方々との交流や多世代交流を図るため、「ふれあい大会」を開催する。 日付：令和 6 年 11 月 3 日（日） 場所：高平小学校グラウンド 大会名：38 回 ふれあい大会 参加者：区長会、消防団、地域の方々など延べ、700 人					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	2024	6	7	ふれあい大会実行委員会 第 1 回役員会	25	700
				第 38 回ふれあい大会開催内容協議・決定		
	2024	8	20	花火申請書作成・提出	3	
	2024	9	13	ふれあい大会実行委員会 第 2 回役員会	25	
				準備状況進捗報告・質疑応答等		
	2024	10	2	警察・市役所・保健所申請書作成・提出	3	
	2024	10	11	ふれあい大会実行委員会 第 3 回役員会	25	
				準備状況進捗報告・各団体役割指示等		
	2024	10	19	店舗看板・無料遊び道具作成	6	
	2024	10	27	花火通行止め予告看板設置	5	
	2024	11	2	前日準備	30	
	2024	11	3	ふれあい大会当日	70	
2024	11	4	片付け	35		
2024	11	30	各支払い等完了	3		

事業効果	それぞれの【場】が合わさり、愛にあふれた空間が、自然に全体を包み込み【温かい場】として、とてもステキな時間(とき)を共有できたと感じれる【場】となりました。	
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の 実現に向けた 取組の効果	1 SDGs の推進	
	(取組内容) 高平地区の住人で協力して運営。 新しく移住されたかた、 故郷に戻ってきた方の交流の場 (目標番号：11)	(効果) ふれあい大会に合わせて里帰りして、 故郷の良さを感じてもらえた。 新しく移住された方が出店し地域の方と 交流をして、高平の良さを感じてもらえた【場】
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現	
	(取組内容) 高平出身で活躍してる方の応援 幼稚園閉園イベント (シナリオ：5) 若い世代の大会運営への参画 (シナリオ：9)	(効果) 幼稚園児や先生方が閉園にむけてのあいさつや 感謝の気持ちを伝えて、とてもステキなステージを 披露しみんなにむかってアピールできた。 今年初めて、準備などに関わり「これならできる」 大会に参加して「楽しかった、続けてほしい」 片付けや大会に参加して開催してくれたことに 対しての「感謝の気持ち」を、「手伝う気持ち」に 変えていくように心をつかめた。
課題及び 今後の展望	若い世代の人々が関われる【場】をつくることで 新たな即戦力を増やしていく。	

(活動状況写真)

- ・ふれあい大会実行委員会 役員会



- ・店舗看板・遊び作成



・ 花火通行止め予告看板設置



・ 巡回バス予告看板設置



・ 前日準備

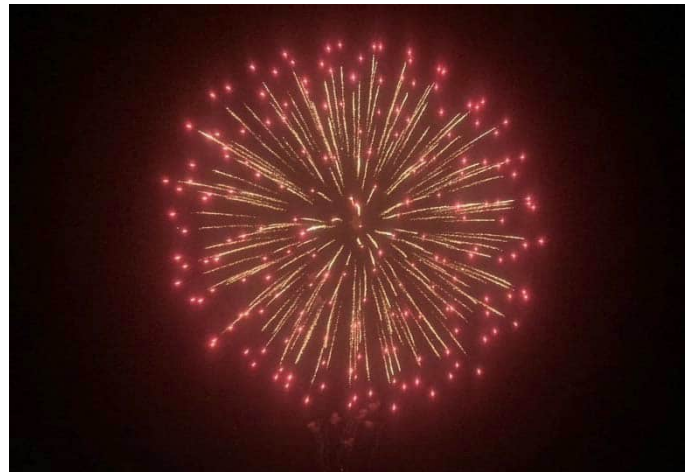


・ 当日準備



・ 当日





・ 片付け



団体名

ふれあい大会実行委員会

団体設立

西暦 1985 年 7 月 13 日

活動分野

子どもの健全育成
地域の方との多世代交流

設立目的

親子でふれあうキャンプファイヤーからスタートされているようです。親子のみの開催から地域の方々にもご協力頂き大会を重ねて、コロナ禍で開催出来ない 1 年も乗り越えて、子ども達の笑顔や地域の方々の大きな力を貸して頂き、昨年度は 36 回大会を開催させて頂きました。少子高齢化の中で今まで子ども達の為に、ご尽力頂いた地域の方々と共に今後は多世代交流が図れる大会として今まで続けて下さった方々と共に継続していきたい。

事業名							(阪神地域の自然、里山及び文化と歴史をエコツアー体験を通じて見識を深めてもらう)						
団体名				自然の学びの会				代表		仲井 徳			
協働団体													
活動地域				阪神地区									
事業の 目的・趣旨				兵庫県第 10 期ビジョン委員会「自然の学びのグループ」の組織を基礎に継続して事業を行う。阪神地域の優れた自然、里山及び文化と歴史を広く知り、地域の方々、児童に体験して頂くエコツアーを実施する事により、会員のニューツーリズム（エコツーリズム&グリーンツーリズム）に関する見識を深めるとともに兵庫県が目指す方向「阪神地域ビジョン 2050」の実現に向けて少しでも寄与していくことを目的とする。兵庫県及び志を同じくする宝塚エコネット等他グループの連携、共催、支援に心掛ける									
事業内容				2020 年度から 2 年間の VISION 委員会活動を踏まえ、2022 年度から独自でボランティアグループを立ちあげ継続推進活動を行う 年数回、構成メンバーとともに、阪神地区の自然や文化や歴史をともに体験してもらう公募ツアーで一般参加者を集め、阪神地区の魅力ある地域の見識・理解を深めてもらう【公募ツアー全 5 回開催】									
				実施日（年-月-日）				事業概要				参加人数（人）	
												スタッフ	一般参加者
スケジュール				6	7	7	第 1 回公募ツアー（小浜）				6	12	
				6	8	25	第 27 回定例会				8		
				6	9	29	第 2 回公募ツアー（武田尾）				9	8	
				6	10	27	第 28 回定例会				6		
				6	11	17	第 3 回公募ツアー（三田 人博）				5	9	
				6	12	15	第 29 回定例会				7		
				7	1	19	第 4 回公募ツアー（加茂遺跡）				7	15	
				7	2	16	第 30 回定例会				8		
				7	3	16	第 31 回定例会				10		
				7	3	23	第 5 回公募ツアー（きづきの森）				7	17	

事業効果	5 回の公募ツアーで一般参加者を延べ 60 名以上を募り、阪神地区の自然や里山、文化に触れあう事が出来た。 公募ツアーは、参加者に生涯の学びの場を提供することにも繋がり、新たな発見や気づきを与えられたと確信している	
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進	
	(取組内容) 陸の豊かさを守ろう 生物多様性の大切さを PR する	(効果) 武田尾周辺やきづきの森で貴重な植物の自然観察や実体験を通じて参加者にはそれなりの IMPACT/新たな発見を与える事ができました 【目標 17】
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現	
	(取組内容) 自然、歴史、文化が息づくまち 人をそだてるまち 生涯学びの場を提供	(効果) 三田人博や小浜宿や加茂遺跡の自然や文化や歴史の現場に行けば、新たな発見や感じるものがあり、参加者の今後のモチベーションアップに繋がった【シナリオ 15】
課題及び 今後の展望	<input type="checkbox"/> 課題：公募ツアー一般参加者の裾野を広げる事 → 活動内容のオープン化 <input type="checkbox"/> 今後の展望 他の市民団体との連携を図り、阪神地区の新たな魅力づくり活動を徐々に浸透化させていきたい	

(活動状況写真)

別紙添付資料ご参照

団体名 自然の学びの会

団体設立 西暦 2022 年 3 月 13 日

活動分野 エコツアー

設立目的 この会は阪神地域の優れた自然、里山及び文化と歴史を広く知り、体験して頂くエコツアーを実施する事により、会員のニューツーリズム（エコツーリズムとグリーンツーリズム）に関する見識を深めると共に、兵庫県が目指す方向「阪神地域ビジョン 2050」の実現に少しでも寄与することを目的とする

事業名 (第 18 回 宝塚アカデミー音楽団定期演奏会)			
団体名	宝塚アカデミー音楽団	代表	和田 守弘
協働団体			
活動地域	宝塚市 宝塚市近隣		
事業の 目的・趣旨	私たちの演奏で来場者が笑顔になるような定期演奏会 当団の定期演奏会は、チャリティーコンサートとしての社会貢献活動として、 集まった募金は復興支援金として全額寄付しています。 今回は石川県能登半島地震の復興に全額募金いたします。		
事業内容	第 18 回 宝塚アカデミー音楽団定期演奏会 開催日時：令和 6 年 9 月 8 日（日）13：00 開場 14：00 開演 開催場所：東りいたみホール 入場無料 収容人数 1200 人ホールでの約 2 時間半の音楽コンサートの実施 入場者数：約 650 名 <開演前 ロビーにて> 有志によるロビーコンサート <第 1 部> ・春の猟犬 ・シェナンドーア ・プスタ <第 2 部>(ハリウッドシネマシーン) ・ハリウッド万歳 ・アメリカングラフィティ19(女性ボーカル HITS) ・ハリウッドマイルストーンズ ・リトル・マーメイド・メドレー <第 3 部> ・カルミナ・ブラーナ <アンコール> ・アイドル ・サウンド・オブ・ミュージック ・マツケンサンバⅡ		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	24	4	17～	定期演奏会に向けての練習・合奏	30～	650
	24	9	7	（毎週土曜日）	65	
	24	6	15	チラシ作成	5	
	24	6	22	練習計画表作成	5	
	24	7	20・21	強化練習	60	
	24	7	27	定期演奏会に関する打合せ	5	
	24	8	10	プログラム作成打合せ	5	
	24	8	24・25	強化練習・通しリハ（25日）	60	
	24	8	28	東リいたみホール ホール打ち合わせ	4	
	24	9	7	前日リハ	65	
	24	9	8	宝塚アカデミー音楽団第18回定期演奏会	85	

事業効果	<p>前回の定期演奏会よりも集客があった、ご来場いただいたお客様よりアンケートの回収率も良く、「楽しかった、また来たい」等の感想をいただき概ね好評であった。</p> <p>チャリティーを兼ねた「石川県令和6年能登半島地震義援金」集まった募金額は¥281,285です。全額石川県令和6年能登半島地震義援金として送ります。</p>		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 4 17	(取組内容) どの世代にも楽しめる音楽 チャリティーを兼ねたコンサート	(効果) どの世代にも楽しめるプログラム構成にし、復興支援として集まった募金は全額寄付することができました。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 14 15	(取組内容) 訪問演奏の様子を掲示 リピーターにつながる音楽を	(効果) 当団が普段の活動で行なっている訪問先の写真をロビーにて掲示しました。
課題及び今後の展望	<p>集客 700 名を目標にしていたが、入場者数は約 650 名でした。</p> <p>宣伝活動が思うように進まず、特にチラシの挟み込みが 1 カ所しかできなかったため、次回はチラシのはさみこみを積極的にし、集客が増えるようにしたい。</p>		

(活動状況写真)





団体名 宝塚アカデミー音楽団

団体設立 西暦 2000年 4月 1日

活動分野 音楽

設立目的 日頃コンサート会場に足を運ぶことが困難な、高齢者の方や未就学の子どもたち、さまざまなハンデを背負う方々の施設を訪れて、フル編成吹奏楽による出前コンサートをお届けしたい！という夢を叶えるため

事業名

(宝塚のダリアを使ってお花のお家を作ろう！自然に触れ、心の豊かさを育む花育)

団体名	トワボワの親子で花育	代表	三木寿子
協働団体			
活動地域	宝塚市		
事業の 目的・趣旨	<p>近年、身近な花や緑に触れる機会が少なく、自分が暮らす地域の豊かな自然を知らない、気づかない子どもが多くいます。阪神間の市域資源（自然）を活用し、色彩豊かな花に触れる機会を作ること、子どもの好奇心や感性を刺激し、優しい気持ちを育てます。花や緑を通じて健やかな子どもの成長と、豊かな親子時間の創出、子育て世代の方同士、また世代を超えたつながりの場となることを目的とします。</p>		
事業内容	<p>「宝塚のダリアを使ってお花のお家を作ろう！」 日時；7月20日（土）14時～15時30分 場所；宝塚市立文化芸術センター サブギャラリー 参加者；30組（満席） 内容；宝塚北部のダリア園様のダリアを使用し、参加者全員でお花の家を作ります。</p> <p>第1部 子どもが2、3人入れるような大きさの木の骨組みを用意します。 （株）日比谷花壇トップフロリストの澄川みゆきさんにお越しいただき 木の骨組みにお花を装飾するデモンストレーションをして頂きます。</p> <p>第2部 参加者の方々にも各自アレンジメントを作って頂きます。 皆さんの作品をお家の周りに並べて完成となります。</p> <p>第3部 記念撮影。 イベント終了後は自分の作ったアレンジメントをお持ち帰りして頂きます。</p> <p>◎定例活動 母の日ワークショップ 日時；5月12日（日）10時～11時、13時半～14時半 場所；宝塚市東公民館 学習室 参加者；20組 内容；母の日に親子でカーネーションを使ったブーケを作ろう！</p> <p>多くのお父さんとお子様に参加していただき、かわいい作品ができました。</p>		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	2024	5	12	母の日イベント	3 人	20 人
		6	20	イベントチラシ制作・印刷	1 人	
		6	22	イベント申し込み開始	1 人	
		7	5	備品の仕入れ	1 人	
		7	12	備品の仕入れ	1 人	
		7	17	骨組み購入・制作	2 人	
		7	18	備品の仕入れ	1 人	
		7	19	お花の仕入れ	2 人	
				ダリア園にダリアの摘み取り・水揚げ・準備	3 人	
		7	20	イベント開催	8 人	120 人

事業効果	色彩豊かな花や緑に触れることで、子どもの好奇心を刺激し優しい気持ちを育てます。お花を用いて自由な発想で創作活動を楽しんでもらうこと、夢中になって作業することで、ひらめき力、集中力アップ、右脳の活性化につながります。五感を使って体験した記憶は豊かな感性を育んでくれます。まだ馴染みのない「花育」という言葉や内容の認知拡大と多世代の交流、街の賑わいの創出を生み出しました。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の 実現に向けた 取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 3	(取組内容) 花育を通した、心の健康促進	(効果) 花育を通して、感性を刺激し子どもたちの豊かな心の育成につながった。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
課題及び 今後の展望	(シナリオ) 5	(取組内容) 宝塚の市花ダリアについて学び、次世代へ継承する	(効果) 地元宝塚のダリアを有効活用し、ダリア園や市花ダリアの認知拡大や魅力をアピール出来た。
	想定してはいたものの、参加者の人数が多く、記念撮影をするのに待ち時間が長くなってしまったことが反省です。次回（来年）は、ダリア園での摘み取り体験＋ワークショップなど出来たらと考えています。またたくさんのお方々にご参加いただき、楽しみながら宝塚の素敵な自然に触れられるイベントが出来たらと考えています。		

(活動状況写真)

お花の家の骨組み



参加者とダリアクイズをしている様子



司会進行する主催者、三木



デモンストレーションをする澄川氏





参加者の制作の様子



お家の中に入った様子



完成したお花のお家



母の日ワークショップの様子



団体名 トワボワの親子で花育

◆-----◆
団体設立 西暦 2023 年 4 月 15 日

活動分野 子どもの健全育成

設立目的 花や緑に触れる機会が少なくなりつつある現代、色彩豊かな花に触れることで、子どもの好奇心と感性を刺激し、優しい気持ちを育てる。

事業名 (WORLD TOUR IN ITAMI 2024～世界を知ろう！伊丹万博～)

団体名	一般社団法人伊丹青年会議所	代表	二葉卓
協働団体	(後援) 伊丹市、伊丹市教育委員会、伊丹市PTA連合会、伊丹市自治会連合会、兵庫県国際交流協会、伊丹市国際・平和交流協会 (協力) 伊丹市立伊丹高等学校、兵庫県立伊丹高等学校、with LOCAL、大阪観光大学伊丹サテライト校、関西国際教育学院		
活動地域	伊丹市		
事業の 目的・趣旨	近年外国人の増加と多国籍化が進んでいます。しかし、文化や習慣の違いを知る交流の場が多くありません。 そのため、世界の文化や習慣の垣根を超え、相互理解が深まり、互いに協力しあってまちの賑わいをつくる必要があります。 そこで、国際感覚を持った人財を増やすことを目的に本事業を実施します。		
事業内容	<p><テーマ> WORLD TOUR IN ITAMI 2024 ～世界を知ろう！伊丹万博～ ■開催日時...令和6年9月29日(日) 10:30～15:30 ■開催場所...白雪ブルワリービレッジ長寿蔵、三軒寺前広場 ■内容 世界の文化や習慣の垣根を超え、相互理解が深まり、互いに協力しあってまちの賑わいをつくるような事業を実施しました。</p> <p>●三軒寺前広場 世界の「ダンス体験」「キッチンカー」「お酒」「お土産」ブースを設置しました。 ・ステージブースでは世界のダンスを体験していただき、沢山の方と交流しました。また、司会には海外留学経験がある塚本ブロンテ有希様に担当していただき、パフォーマンス内容や演者の紹介をして頂くことで、外国への関心を高めました。ステージはフラットにし、交流しやすいようにスペースも広く設けました。ステージの演者等、外国人がたくさんいる状態となり、音楽という「言葉のいらない交流」を図ることができました。フィナーレでは会場全体を巻き込みアフリカンパレードで皆さんと交流をいたしました。 ・キッチンカーブースでは「タイ」「ベトナム」「インド」「日本」「トルコ」の国の料理を体験することができました。 ・お土産ブースでは、各国のお土産やボディペイント体験、世界の動物バルーンなどの販売をしていただき各国の伝統文化にも触れることができました。</p> <p>●長寿蔵 日本の文化清酒発祥の地伊丹で酒蔵レストランを貸し切りしました。10か国以上の体験ブースを設置し、実際に外国の文化を経験していただきました。メンバーがツアーガイド役をし、来場者を世界ツアーへ案内致しました。最後は三軒寺前広場に集まり、みんなで世界のダンス体験をしました。またパスポートを1000部配布し、会場全体を回れるようにチェックポイントを設置いたしました。実際に会場に入る前はJALのスタッフさんにパスポートチェック体験もしていただきました。</p> <p>●全エリアをつなぐために、パスポート制度を採用しました。 その結果、長寿蔵と三軒寺広場の渦流をつくり、事業全体が賑わいました。 ■参加者...伊丹市および阪神北地域からの参加者を中心に、およそ6000人となりました、在住外国人や、小学校、中学校、高校、日本語学校等にも参加いただきました。</p>		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	6	6	6	（理事会）講演依頼団体確定	15	6000
	6	7	2	（理事会）行政申請関係書類確定（道路交通、保健所、市役所、消防）。	15	
	6	7	3	広告協賛の依頼開始。 ブース出展、出店申込開始。	45	
	6	8	6	（理事会）チラシ内容確定（同日以降発注）	15	
	6	8	2 1	チラシ自治会への配布依頼	45	
	6	9	3	学校等チラシ配信依頼	45	
	6	9	1 1	（理事会）事業計画書確定。	15	
	6	9	1 7	メンバー内事前説明会	40	
	6	9	2 9	事業実施	50	
	6	1 0	1 ～	請求書払いの各団体へ支払い		
	6	1 1	5	（理事会）本事業報告書等確定。	15	

事業効果	<p>1 参加者益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した方が他の国について学び体験すること、食や文化や買い物、音楽を通して、相手の事を知り国際感覚を養いました。 ・参加した外国人の方が、地域の人とコミュニケーションをとることで、さらに伊丹のことを知り、他の事業へも参加しやすくなりました。 <p>2 地域益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民が、外国人を理解し興味を持つ第一歩となりました。 ・伊丹市役所の方も沢山参加していただけたことにより、国際感覚の大切さをより知っていただきました。 <p>3 社会益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人と交流した経験をもつ人が増えて、国籍関係なく地域事業に参加しやすくなりました。 		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 8	(取組内容) 国際感覚を持った人財を増やすことを通じて、地域で外国人観光客が来ても大丈夫な体制となり、持続可能な観光業が促進されました。	(効果) 行政、公的団体、大学、民間団体等との協同で、多角的視点から国際感覚について伝える仕組みを構築できました。
	17	伊丹市、伊丹市内の高校生、近隣市の大学生、兵庫県国際交流協会、民間の外国人支援団体、近隣の青年会議所とのパートナーシップを基に事業構築をしました。	これまでも地域と連携を取り、事業を行ってきた実績を生かし事業の構築を進めました。また、国際的団体である青年会議所が持つネットワークやノウハウも活用しました。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 4	(取組内容) 外国のブースや日本のブースを通じて、文化や習慣の理解を促して多様性を育み、国際感覚を持った人財を増やしました。	(効果) 10を超える国の文化や習慣を理解できる仕組みを、多数の団体との協同によって創出しました。
	17	会場周辺の店舗等とも協力し、国籍を超えて多様な人財が事業構築に携わり、外国のブースを出しました。	会場周辺の店舗等と協力し、子供から大人まで体験できる事業の構築を行いました。今後もまちの事業に参加したいと思ってもらえるような事業となりました。
課題及び今後の展望	<p>今回得た関係機関との連携をさらに強め、次年度以降の互いの活動に生かしていく。なお、当青年会議所では、次年度も国際関係事業を実施する方向で調整に入っている。</p> <p>今回の連携先団体からは、当初、引き継いで実施を検討したいと言ってもらっていたが、事業規模があまりに大きく対応が困難だと言われてしまった。参加者及び参加ボランティアの裾野を広げ、将来的には実行委員会形式での開催も視野に入れたい。</p>		

(活動状況写真)



団体名 一般社団法人伊丹青年会議所

団体設立 西暦 1963 年 8 月 31 日

活動分野 まちづくり、青少年育成

設立目的 ① 経済、社会、文化等に関する諸問題を調査、研究して国内諸団体と協力して、日本経済の正しい発展を図ること。② 指導者訓練を基調とした修練、社会奉仕及び会員の連携を図ること。③ 国際青年会議所の機構を通じ、国際的理解及び親善を助長し、世界の繁栄と平和に寄与すること。

事業名 (“ 春のあかしあバスツアー” 及び “ 秋のあかしあバスツアー”)			
団体名	あかしあ台体育振興会	代表	竹中 克明
協働団体	あかしあ台自治会、あかしあ台まち作り協議会、あかしあ台ふれあい活動推進協議会 あかしあ台健康推進員		
活動地域	三田市 あかしあ台小学校区		
事業の 目的・趣旨	<p>三田市あかしあ台小学校校区（あかしあ台、さくら坂 約 3000 所帯）住民の健康増進と相互親睦を図る目的で 2003 年度より継続して当該行事を続けてきましたが 新型コロナウイルス蔓延による影響と規制により丸 2 年間、中止とし 二年前にようやく当該事業も再開することが出来ました。自治会、まち作り協議会、ふれあい活動推進協議会、健康推進委員、PTA の皆様とも連携して行事を盛り上げてまいります。</p> <p>また、当該地区でも高齢化が進み日ごろ外出する機会の少ない高齢者の皆様や子育てで多忙な毎日をお過ごしおられる皆様、お体の不自由な方にもあかしあ台体育振興会のメンバーがサポートして積極的にご参加いただけるように進めております。</p>		
事業内容	<p>* あかしあ台体育振興会が中心となり あかしあ台自治会、まち作り協議会、ふれあい活動推進協議会、健康推進委員、PTA も協力して運営組織を結成。</p> <p>* 春と秋の 2 度、チャーターバスを利用して地域資源に触れ、学び、考え、且つ地域住民間の多世代交流と親睦、共助を目指した地域環境づくりを目的に事業を展開致しました。</p> <p>具体的には</p> <p>1. 春のあかしあバスツアー：</p> <p>開催日 2024 年 5 月 12 日（日）午前 7 時 15 分～午後 18 時</p> <p>訪問地 神戸ハーバンランド～神戸ポートタワー、神戸空港周辺</p> <p>参加人数 120 名（事前応募方式）</p> <p>2. 秋のあかしあバスツアー：</p> <p>開催日 2024 年 10 月 19 日（土）午前 7 時～午後 7 時</p> <p>訪問地；但馬まほろば周辺、鳥取砂丘周辺、香住漁港周辺</p> <p>参加人数 204 名（事前応募方式）</p> <p>両行事共に企画から実行まであかしあ台体育振興会メンバーが中心となり例えばバス中でのガイド役、訪問地での誘導係なども全て手作りで一切の旅行会社などを介さない行事とし、行程中は参加者との対話を最も重視して参加者も一体となり楽しめる行事を毎回進めました。</p>		

	年・月・日	事業概要	参加予定人数（人）	
			スタッフ	一般参加者
スケジュール	6.4.27	一般参加者募集・受付	12	106
	6.4.29	主要スタッフ下見	12	
	6.5.5	体育振興会スタッフミーティング	32	
	6.5.11	関係団体も含めたスタッフミーティング	43	
	6.5.12	春のバスツアー開催	14	
	6.6.8	秋のバスツアー下見及び春のバスツアー反省会	12	
	6.7.21	体育振興会ミーティング	30	
	6.8.10	体育振興会ミーティング	52	183
	6.8.17	秋のバスツアー募集・受付	12	
	6.9.17	主要スタッフミーティング	27	
	6.10.5	関係団体も含めたスタッフ全体ミーティング	48	
	6.10.19	秋のバスツアー開催	21	
	6.11.30	秋のバスツアー反省会	47	
	6.12.8	夢づくり応援事業報告内容作成ミーティング	12	

事業効果	<p>当地区においても自治会やその他の関係団体主催の行事で担い手が年々少なくなりマンネリ化が進む中、年二回の当該事業については毎回、あかしあ台体育振興会メンバーによる継続的な創意工夫を加えられ 併せて参加者からのフィードバック等も考慮しながら行事を推進しており今回の春・秋のバスツアーに於いても応募人数以上の参加希望者があり地域行事として定着してきている。当該行事の事業効果としての“ 共助・共生” の意識も高まり高齢者の一人での参加者にも輪が広がりコミュニティが広がっています。今後とも、地域の中核的事業として我々あかしあ台体育振興会が中心となって担ってゆく所存です。本年迄 3 年間の夢づくり応援事業のご支援に心より感謝申し上げます。</p>		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 3 14・15	(取組内容) 自治会、まち作り協議会、健康推進員、ふれあい活動推進協議会との共催して地域住民の相互交流と共助の精神を発展させ地域の活性化を目指す。 居住地域の大切な資源を知りまた、兵庫県内に有って我々が知らない資源を知り 一人一人が将来にわたり何をすべきかを学ぶことを目指す。	(効果) 街の高齢化が進む中、多世代間交流と日頃閉じこもりがちな高齢者や身体障がい者等も参加して誰もが健康で明るく生活できる地域作りに寄与できた。 我々が住む三田市は緑に囲まれてはいるがニュータウンと旧市街地を取り巻く環境は大きく異なりまた、同じ兵庫県内であっても海洋資源に触れる機会も少ないことから当該事業を通じて参加者一人一人が学び、考え、実践課題を見つける行事として展開できた。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 5 3	(取組内容) 事業を通じてより多くの住民が積極的に参加し 日頃見慣れた環境の中、自然の大切さを再認識してこの環境を守り抜くことを目指す。 高齢化が進む当該地域にも新たに宅地開発も進み世代の多様化が進んできている。そのような中、自治会他の地域活動団体と共催で多世代交流の場を安定して提供し皆が安心して暮らせる、助け合える地域を目指す。	(効果) 自治会をはじめ地域活動の各団体とも協働してよりよい環境とその持続性を重視して保全すべきは保全し、変えるべき環境は手を加える等、自然の大切さを再認識できた。 あかしあ台体育振興会には10歳代の学生から90歳の高齢メンバー迄老若男女が、また職業も多業種のメンバーが参加しており、世代を超え携わる仕事も異なるメンバー構成により多種多様な意見交換や事業の組み立てができた。

<p>課題及び 今後の展望</p>	<p>これまでご支援いただいた夢づくり助成が本年で最終となり当該事業の継続的な事業推進に向けてあかしあ台体育振興会メンバーによる夏祭り出展での収益による当該事業への全額補助に加えて参加者からの参加費の値上げも視野に推進しなければならないこと。年々高騰するバスチャーター代に加えて諸経費の高騰の中、如何に効果あるものにしてゆくかが課題である。</p> <p>また、今回我々が行った工夫として春のバスツアーの際には、バス１台のピストン輸送を行ったり 秋のバスツアーでは、費用サイズに合わせたバス台数（１台減車）をして使用料の軽減を図りました。今後はこのような工夫も生かして恒例となった当該行事の継続に努めてまいります。</p>
------------------------------	---

（活動状況写真）



団体名

あかしあ台体育振興会

団体設立

2003 年 4 月 1 日

活動分野

まちづくり

設立目的

三田 あかしあ台小学校区（あかしあ台・さくら坂）の地域活動を通じて住民の健康増進と相互親睦・交流を推進するために設立。

事業名	(まち歩きマップで川西の魅力を再発見！)		
団体名	まちの宝物サポート隊	代表	光本 芳子
協働団体			
活動地域	川西市 全地域（会作成のマップ：北部、中部、南部）今回は主に北部エリア		
事業の 目的・趣旨	<p>市の魅力的なストーリーを再発見し磨き上げ、発信することで川西市の副題「清和源氏のふるさと」のブランディングと整合性を保つ一助となる工夫をする。</p> <p>市内外の方へもマップを活用いただくことで、自然、文化・歴史を軸として愛着形成をめざすことと、健康促進、公共交通を利用促進の助けとなるようにしていくことをめざす。</p> <p>付随する取り組みは、2020 年より継続して行っている文化財エリアの公園の整備活動。主な整備場所は三ツ矢サイダー発祥の地として市の登録文化財の川西市平野に建つ「旧三ツ矢記念館」と「源泉地室」の南側の公園の整備。文化財エリアを美しく保っていくことをめざす。</p> <p>また将来的に、隣接する市とも連携を図ることの準備をしていきたい。</p> <p>宝塚市はウィルキンソンの炭酸の歴史を持っており、三ツ矢サイダーの炭酸水の歴史と連携できる可能性を秘めている。（三ツ矢サイダーのロゴは川西市に拠点を置いた源満仲の故事を元に作成され、宝塚市と同様イギリス人によって炭酸を発見した歴史を持つ。）</p>		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きマップの活用（北部、中部・南部エリアをそれぞれ増刷） ・文化財エリアの整備活動 <p>まち歩きマップは川西市の魅力あるストーリーをマップに落とし込み、市内外の方にまち歩きを楽しんでいただける取り組みとして3年前から行っている。市全体を3つのエリアに分け作成。2021 年「清和源氏のふるさと探訪 第一弾 源満仲公と三ツ矢の歴史を巡る」、2022 年「頼光四天王 金太郎、鬼退治へ！」を作成・配布を行った。</p> <p>前年度は第3弾「隠されたストーリー 満仲公と竜馬（北部エリア）」を作成し活用した。3 種のストーリーを楽しみながら歩けるマップが揃った。</p> <p>マップを紹介する代表的なイベントのお城桜まつりは4300 名（速報値）の参加があった。北部3つのコミュニティ×大学が連携して行うイベント（市後援）であまり例をみない形で市長も注目をしてくれている。市の清和源氏まつりでも配布を行った。</p> <p>マップに掲載の店舗をはじめ、地域、行政、地元大学、企業等と連携し活用をめざす。付随する取り組みとしてマップに掲載のある文化財エリアの公園等の整備活動を行う。マップは無償配布する。今後も市役所や能勢電鉄など企業や協力店舗へ設置予定。</p>		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	6	4	25	ミーティング ※随時	7	
	6	6	16	総会・講習会を実施（1回目）	10	
	6	7	7	文化財エリアの整備活動 ※随時	5	
	6	8	24	多田灯り（多田神社 萬燈会）イベント手伝い	6	
	6	8	25	マップ紹介の場となる「お城桜まつりミーティング」※夏から月1回 実施予定（主催の大学1～3名、コミュニティ各3～5名、本会から約3名：毎回約15名）	3	15
	7	3	24	PR 垂れ幕作成、まち歩きマップの増刷	2	
	7	3	29	「第4回 お城桜まつり」準備	3	約30
	7	3	30	「第4回 お城桜まつり」開催（主催の大学の速報値）その他、清和源氏祭りでマップの紹介を行う ※随時：第一弾～三弾のマップを増刷・無償配布 ※連携できる散策イベントがあれば関係各所へマップを配布（随時）、能勢電鉄（随時）・市役所地下1階フリースペースへも配布	8	約3000

事業効果	<p>前年度に続き、市の魅力的なストーリーを再発見し磨き上げ、発信することで川西市の副題「清和源氏のふるさと」のブランディングと整合性を保てるよう工夫し実施した。市内外の方にマップを活用いただくことで、自然・文化・歴史に愛着をもっていただくことに繋がった。また健康促進と公共交通の利用促進の助けとなった。</p> <p>整備活動について、三ツ矢サイダー発祥の地の川西市の指定文化財にもなっている三ツ矢記念館の前の公園を整備することで、訪れる方々に気持ちよく過ごしていただける。</p>		
SDGs の推進、阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 11	(取組内容) 持続可能な都市：目標 11 のターゲットの「11-2」で公共交通の利用促進を盛り込むことで、持続可能な交通手段使えるようにすること。「11-4」で文化や自然を保護（整備）し保っていくための努力を強化すること。	(効果) 前年度で川西市を網羅できる 3 種のまち歩きマップが揃った。こちらを活用し、公共交通の促進をめざすことでキセラ川西エコまち建築賞を受賞した川西市の「低炭素まちづくり事業」に関連した事業ともできる。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 5	(取組内容) 未来まで続く花と緑と里山：本年は「日本一の里山」の川西市北部エリアをマップに盛り込	(効果) まち歩きマップに掲載することで里山の魅力や重要性等を発信できる。
	13	いきいき健康 100 年人生：まち歩きマップで市を周遊いただく。	マップを使用した散策で文化・歴史を学びながら健康の促進をめざすこと。
課題及び今後の展望	<p>本補助金の対象外の「川西ふるさとカルタ事業」は税金面から収益事業とすることが難しいため委託販売等を終了した。これにより会の資金面で自立にむけ模索をしているところ。カルタはふるさと納税品に使用してもらっているが無償提供。会で年 2 回程度の販売は行っていく予定。</p> <p>まち歩きマップ事業は、市の文化・観光の事業等へ連携できる可能性もあるため市へ提案していく予定。たとえば隣接する炭酸の歴史を共通でもつ宝塚市と文化・歴史の面で連携する準備ともししていきたい。</p>		

(活動状況写真)



2024 年 6 月 16 日 総会の風景



2024 年 6 月 16 日 総会の集合（ZOOM 参加者は映っていません。）

2024 年 7 月 整備活動



2024 年 7 月 整備活動（整備前）



2024 年 7 月 6 日 整備活動（整備後）





団体名 まちの宝物サポート隊

団体設立 西暦 2020 年 10 月 01 日

活動分野 文化・歴史

設立目的 2019 年に第 2 次川西市総合戦略を策定するため開催された市民会議「文化・歴史の活かし方」班、有志のメンバーで活動をスタートしました。文化財エリアの整備を軸として、歴史や文化など川西市の魅力を伝える活動や、市と協働事業も進めています。